

共に生きていく社会を目指して

学校法人津田学園 津田学園中学校

3年 中塩屋いろは

税金について興味を持ったのは、市が募集していた中学生議会に参加したことがきっかけです。中学生議会とは、提案者、議長、議員、すべてを中学生でおこない、実際に予算を使って、市をより良くするための提案をして、議会で発表をする場です。私は最初は自分たちの学校のためになる提案をしようと応募しました。しかし、実際に提言した内容に予算が付与されるので、みんなの税金を、自分たち母校のためだけに使うのは、不公平になるのではないかと考えるようになりました。

そのために、まずは、自分の住んでいる町を実際に歩いてみることにしました。障害をもった人達からの目線、赤ちゃんを連れている人達からの目線、町へ観光にきた人達からの目線、色々な立場で町を眺めてみました。すると、町のいたるところに税金が使われていることが分かりました。私が考えていた案の、図書館や駅周辺の無線LANスポットやバリアフリーは、すでに実現していました。ゴミ箱の設置なども考えましたが、防犯の観点から実現ができませんでした。駅内の授乳室の設置や、イベントの企画、太陽光発電は実現するには予算が足りませんでした。町をよりよくすることが、こんなに大変であったことを身を持って知ることができました。

町を一巡りし、新しくなった駅の連絡通路に行きました。新しくなった連絡通路は、周りがきれいで、開放的で、とっても素敵でした。皆か気持ちよく快適に過ごしている中、通路には休憩できるベンチが一つもないことが気になりました。そこで私は、連絡通路にベンチを設置する提案をすることにしました。しかし、ベンチを設置して終わりではありません。ベンチを設置する場所を考えないと、連絡通路にあった点字ブロックや手すりが使えなくなってしまうのです。ベビーカーや車イスの方々、駅を急ぎ歩く方々の邪魔になり、怪我に繋がってもいけません。一つの便利が、誰かの不便になってはいけないのですが、なかなか難しい問題です。やはり、最終的にはお互いがお互いを思いやる気持ちと、自分のことだけでなく、周りに目を配る広い視野が大切になっていくのだな、と感じました。

限りある予算の中で、すべてを税金で解決することは難しいことです。自分のことだけでなく公平な判断をするには、色々な立場の方々からご意見をいただき、相手の立場に立って優先順位を考えることが必要なのだと体験しました。貴重な税金を無駄にしないよう、これから先も自分に何ができるのかを考えながら意識して生活していきたいと思います。